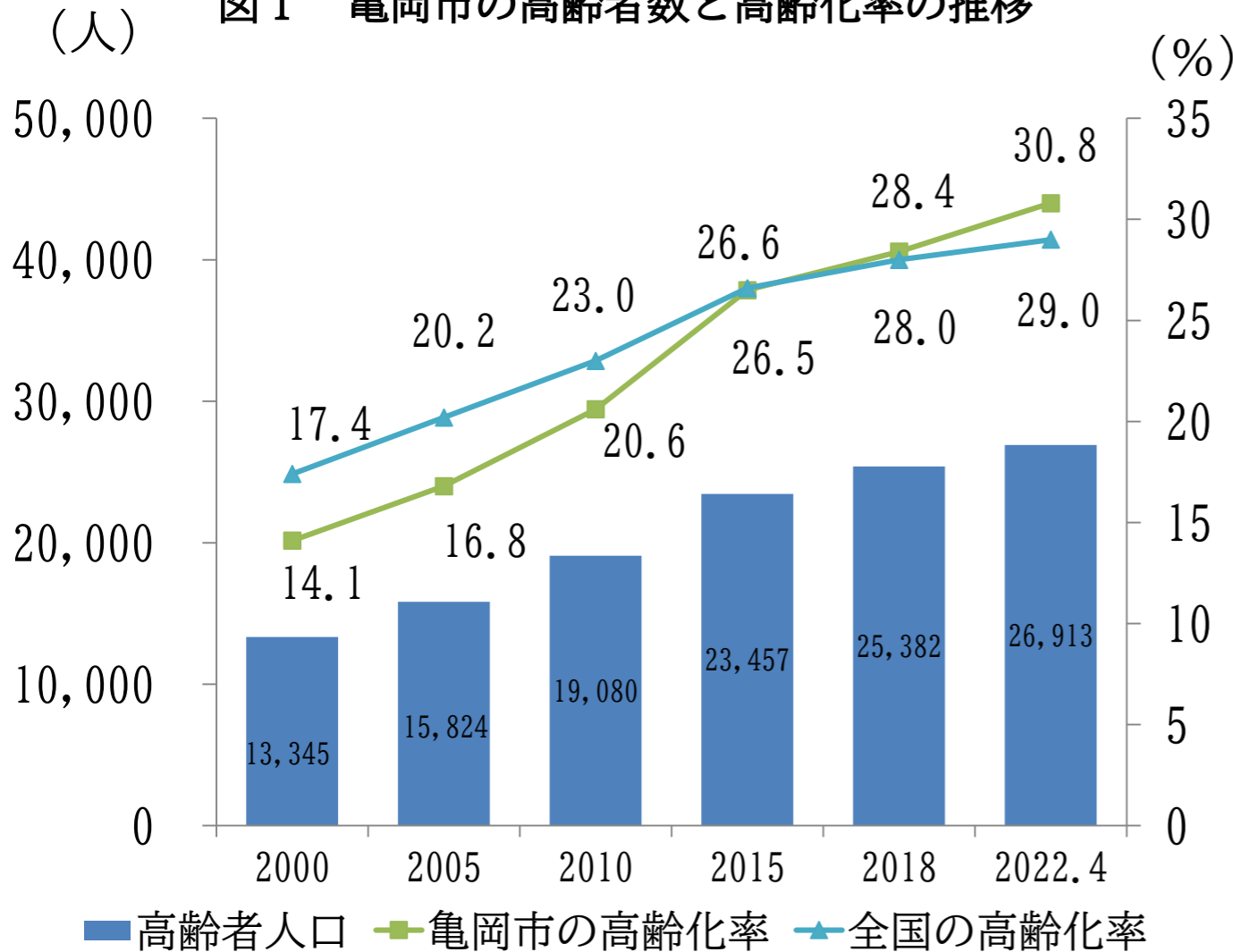


高齢者の安全対策委員会

発表日 令和5年2月18日
発表者 高齢者の安全対策委員会
委員長 木村 みさか

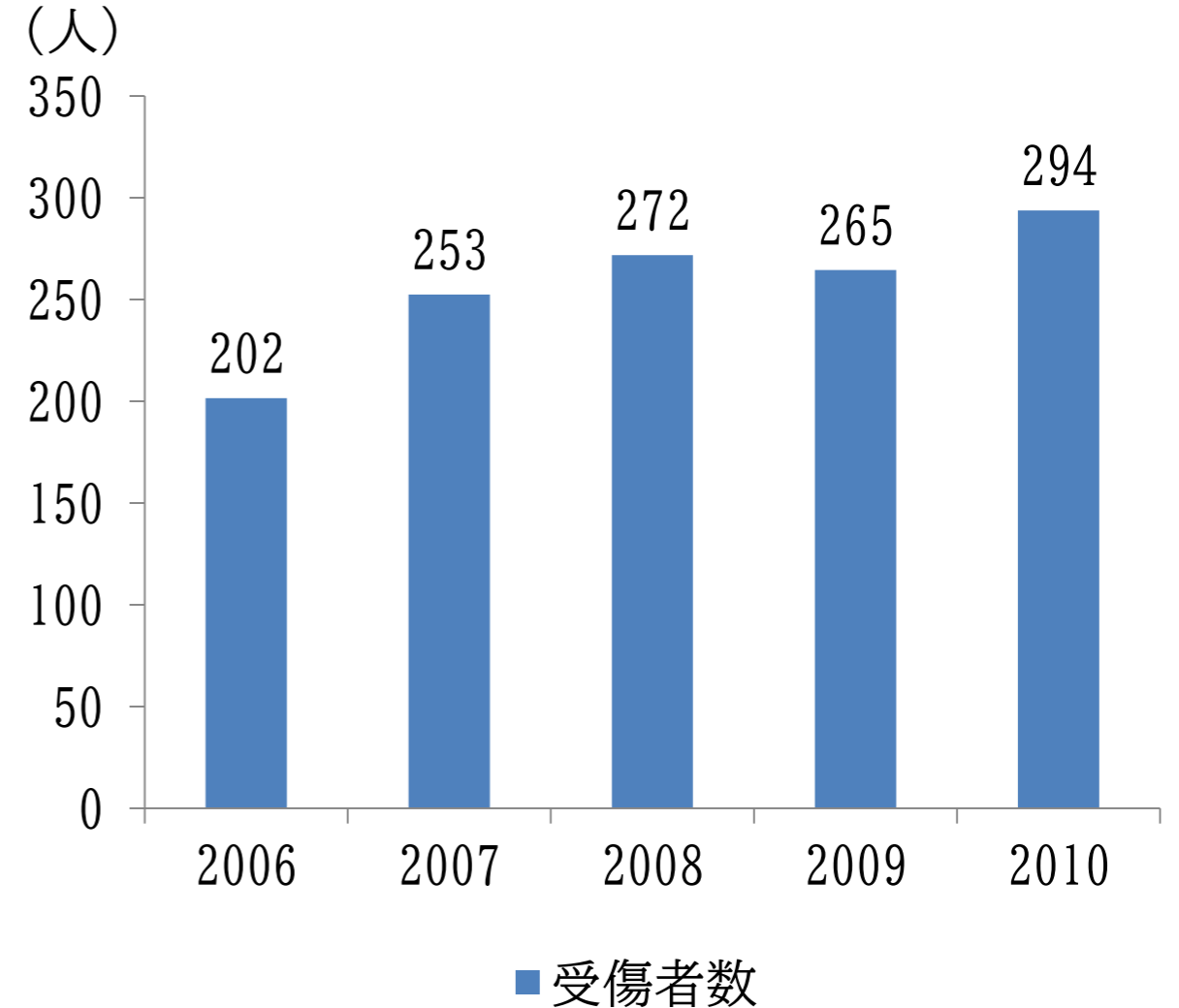
2011年「高齢者の安全対策委員会」設置 (その必要性)

図1 亀岡市の高齢者数と高齢化率の推移



出典：国勢調査、亀岡市人口統計（市民課）

図2 高齢者の受傷者数の推移（10万人あたり）



出典：救急搬送データ

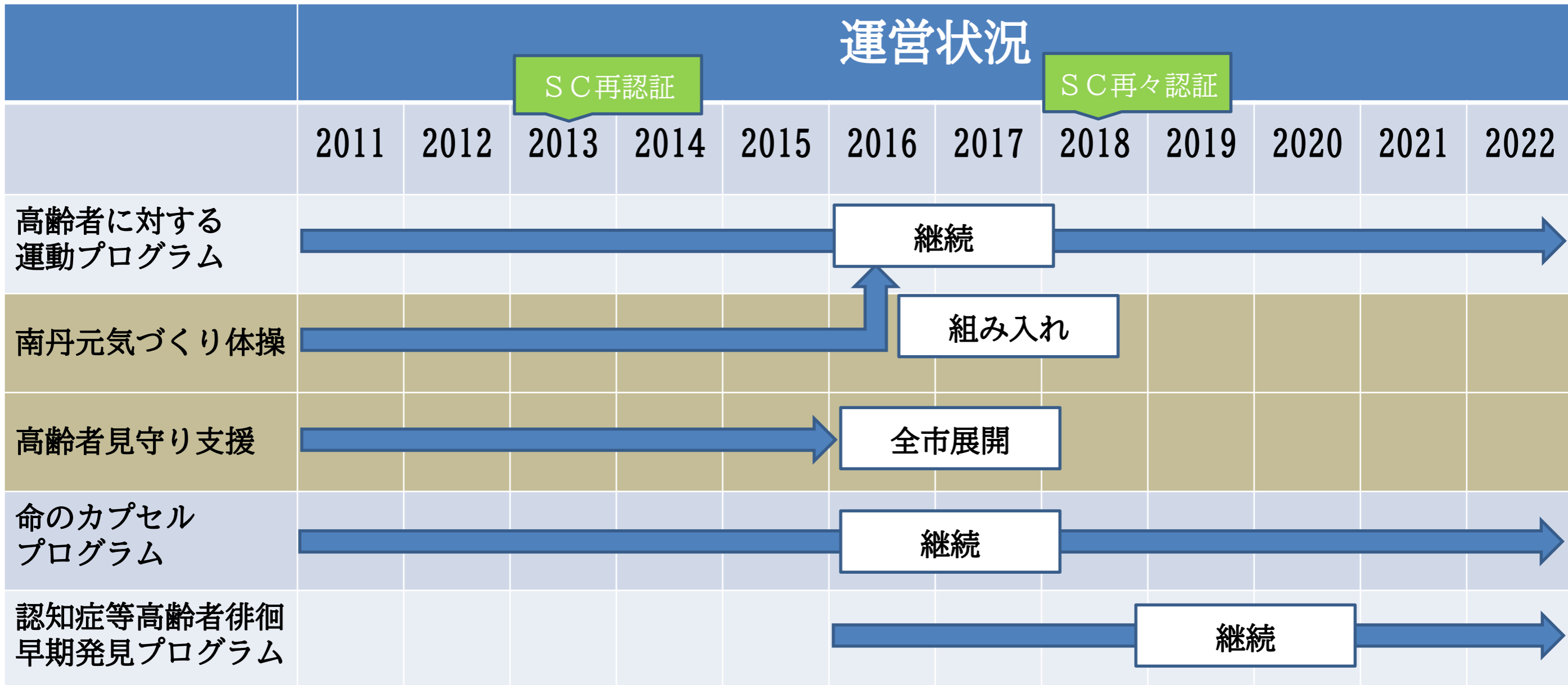
高齢者の安全対策委員会構成

区分		所属団体	役職
市民団体等	1	千歳町自治会 会長	副委員長
	2	宮前町地区社会福祉協議会 会長	
	3	亀岡市民生委員児童委員協議会 会長	
	4	篠町自治会 会長	
	5	亀岡市老人クラブ連合会 副会長	
関係機関等	6	京都先端科学大学 客員研究員	委員長
	7	京都先端科学大学 特任教授	
	8	亀岡市篠地域包括支援センター センター長	
行政関係	9	京都府南丹保健所 企画調整課長	
	10	亀岡市高齢福祉課 課長	
	11	亀岡市健康増進課 課長	
	12	亀岡市保険医療課 課長	
	13	亀岡市自治防災課 課長	

本日の内容

	(スライド)
①セーフコミュニティ再々々認証における プログラムの経過について	・・・ 5
②プログラムの実施に至る背景（実態）と 新たな課題（図7）について	・・・ 6～10
③課題の整理及び今後の方向性（プログラム）について （国・府、市町村、地域（レベル別）における対策）	・・・ 11～14
④各プログラムの内容紹介及び評価方法について	・・・ 15～31
⑤まとめ（気付きと現在の課題について）	・・・ 32
⑥プログラムごとの今後の計画について	・・・ 33
⑦補足（高齢者虐待対応について）	・・・ 34～35

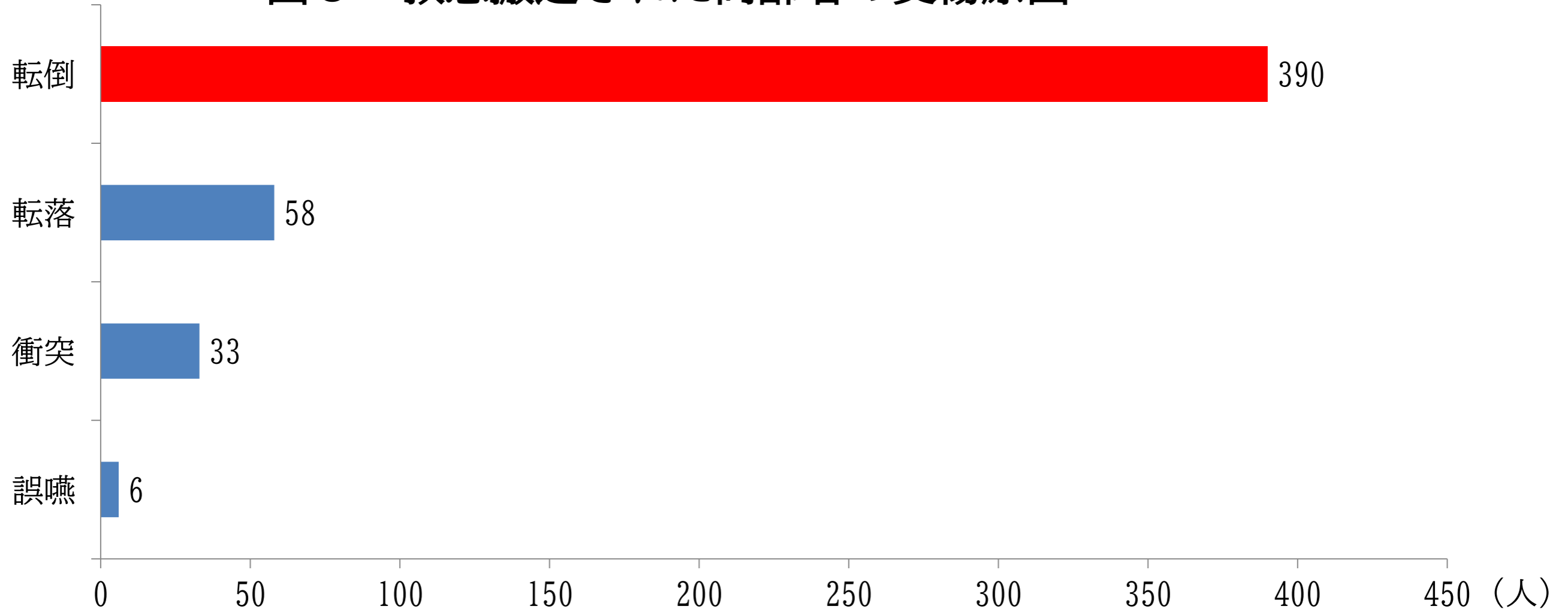
プログラムの経過と運営状況



データから見る亀岡市の実態（継続課題）

「高齢者の受傷原因は転倒が最も多い」

図3 救急搬送された高齢者の受傷原因

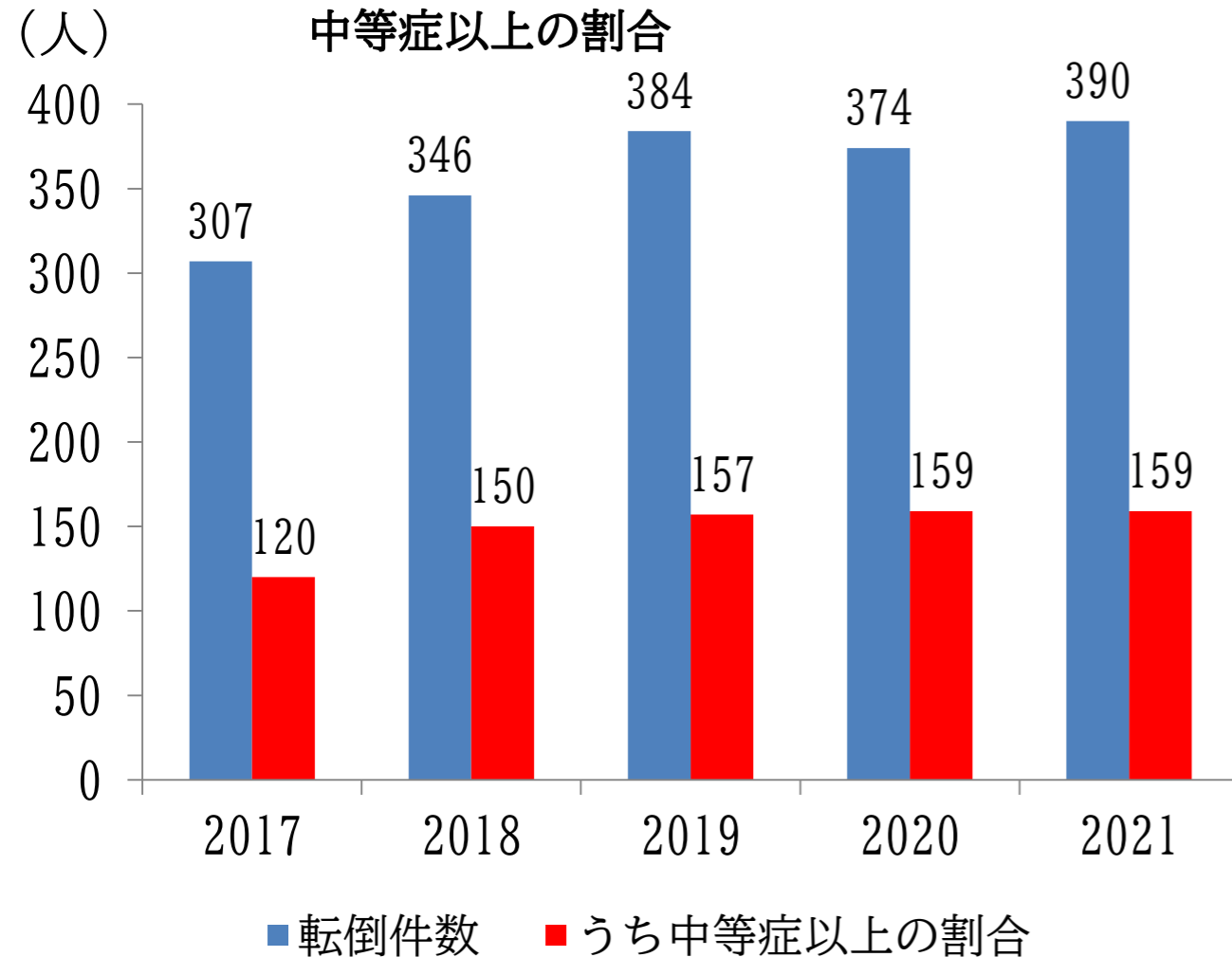


出典：2021年救急搬送データ

データから見る亀岡市の実態（継続課題）

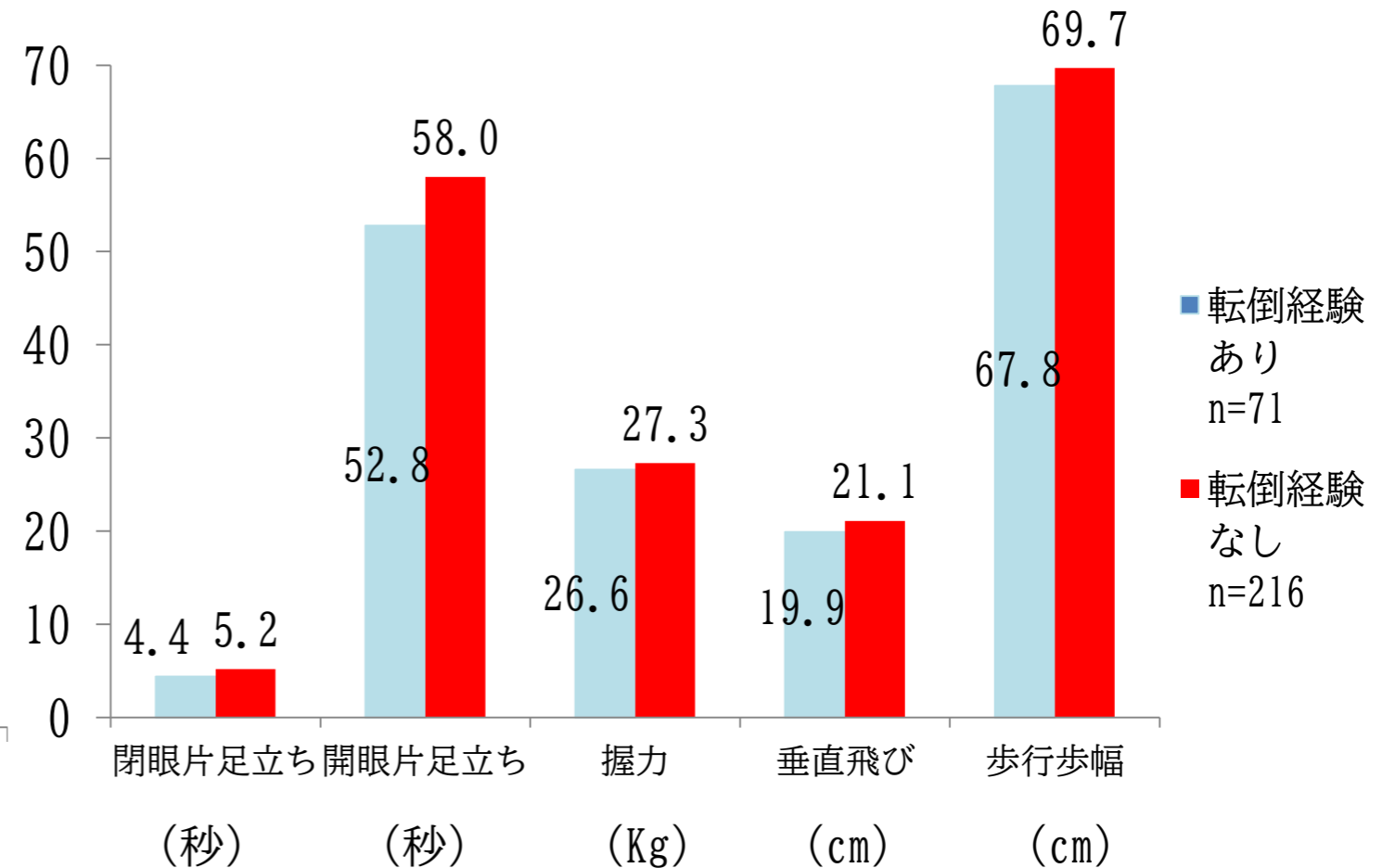
「高齢者の転倒による重症度と転倒経験から見た体力値」

図4 高齢者の転倒による救急搬送者数と中等症以上の割合



出典：救急搬送データ

図5 転倒経験の有無から見た体力測定値



出典：2019年体力測定データ

データから見る亀岡市の実態（継続、新規課題）

「高齢者の転倒者数増加及び転倒場所について」

図6 高齢者の転倒場所別にみた救急搬送人数と発生率

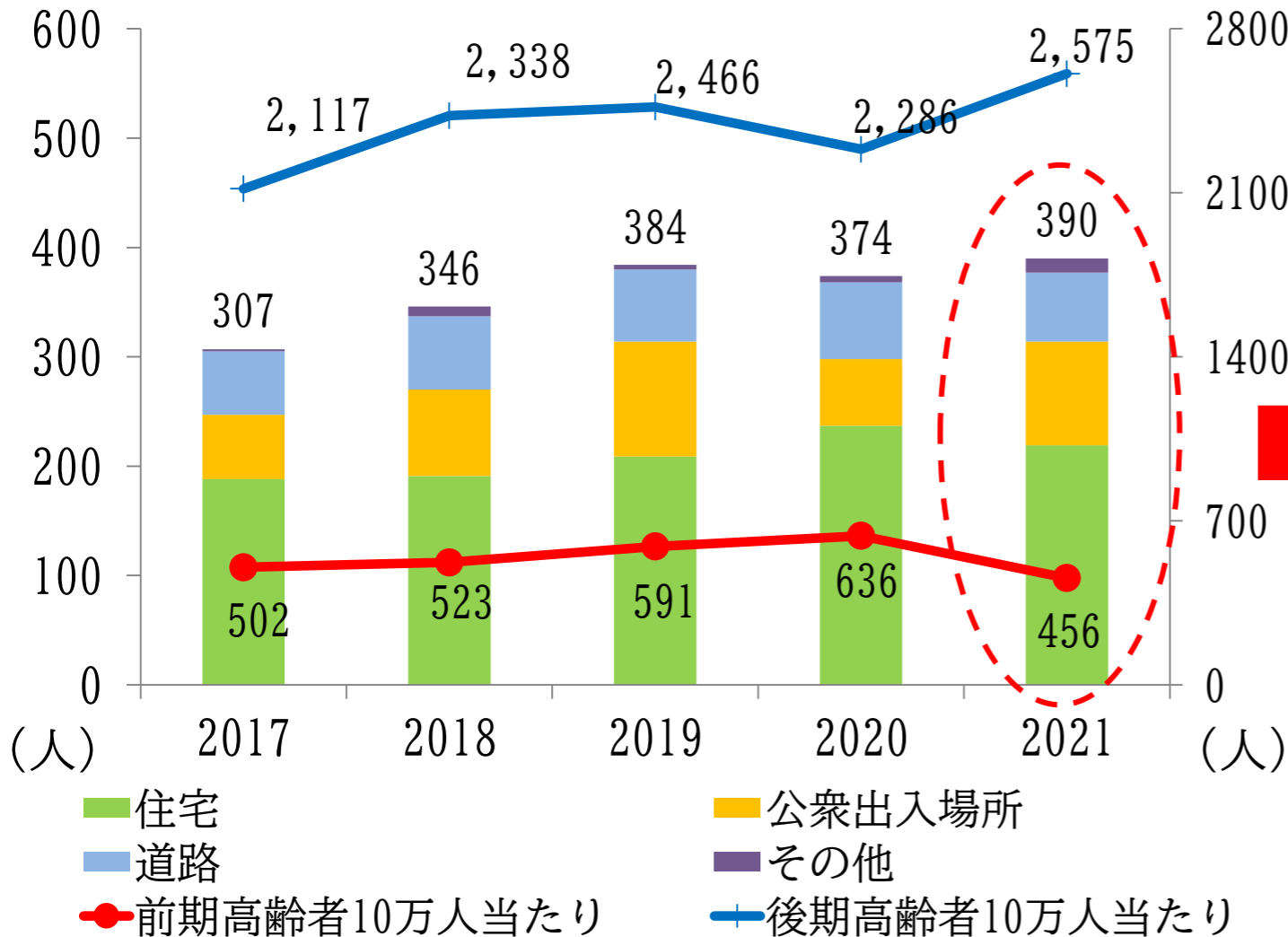
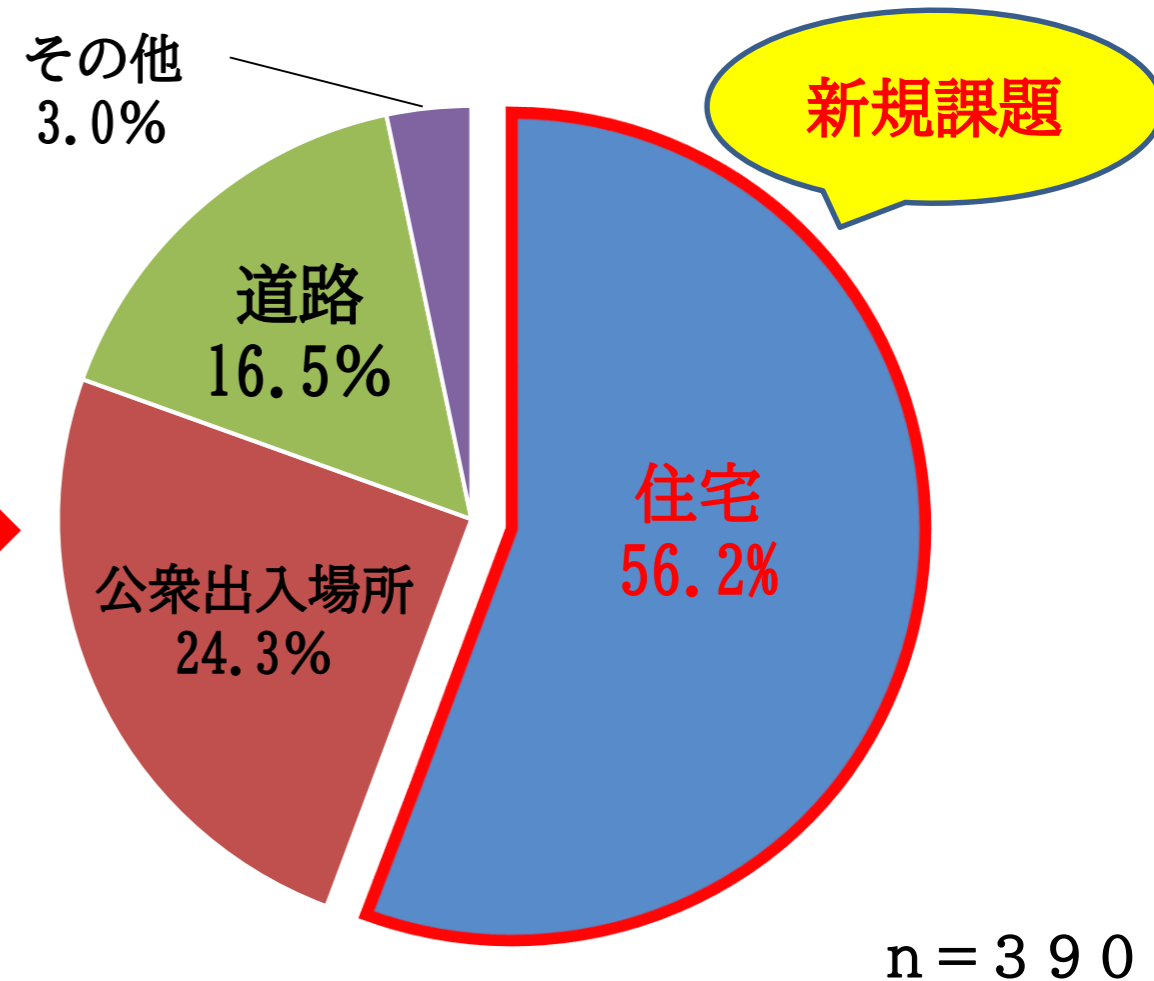


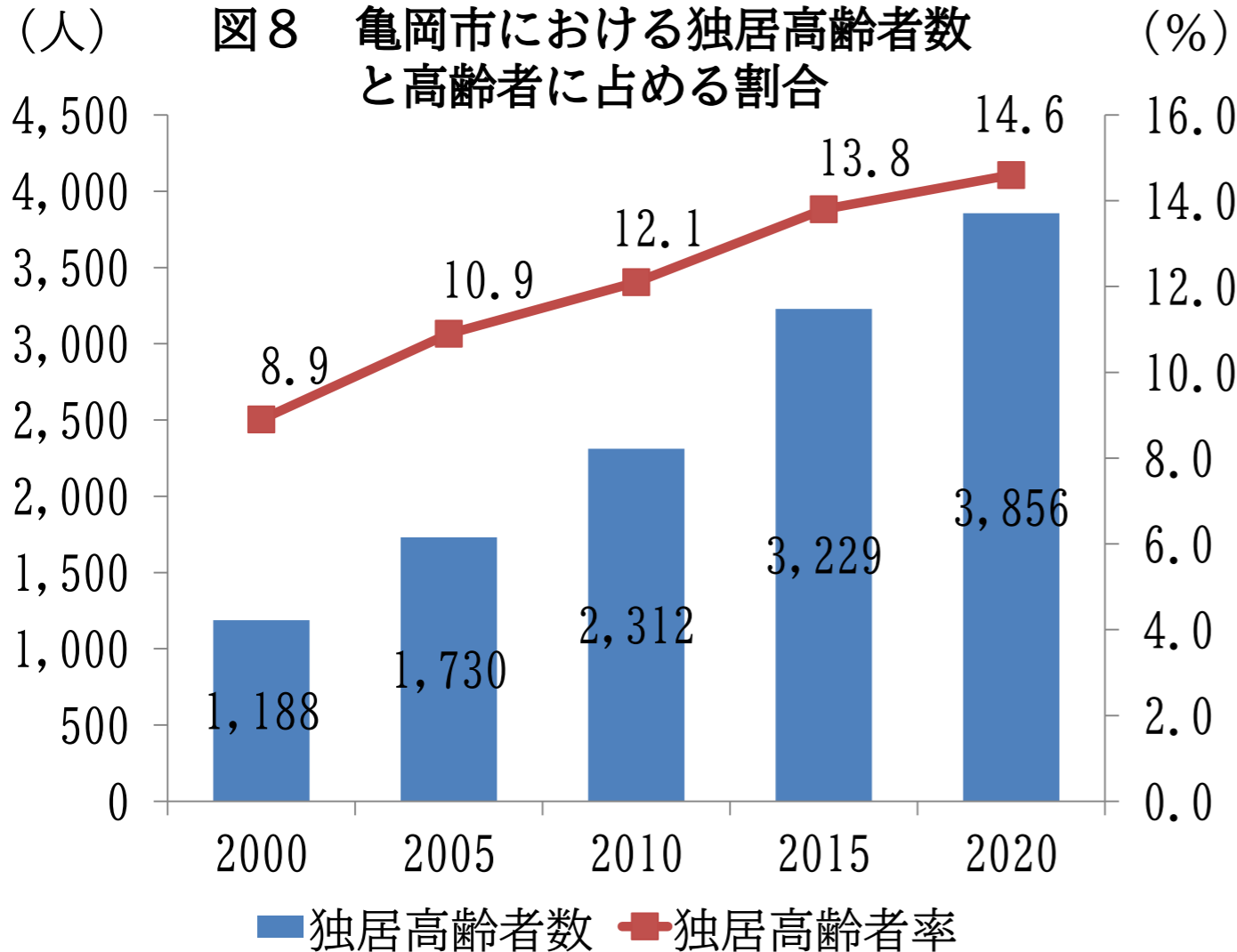
図7 転倒における発生場所の割合



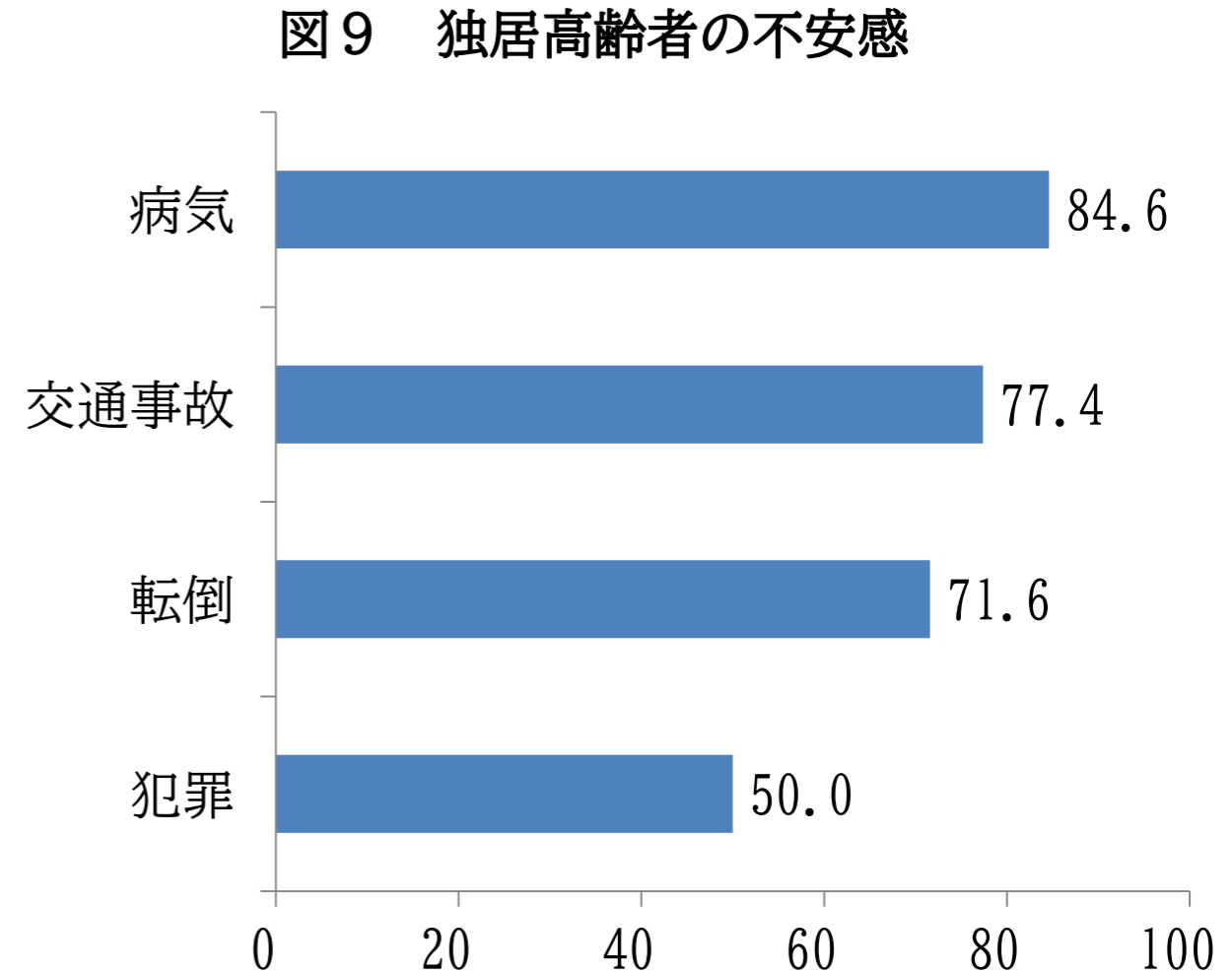
出典：救急搬送データ

データから見る亀岡市の実態（継続課題）

「独居高齢者の増加及び不安感について」



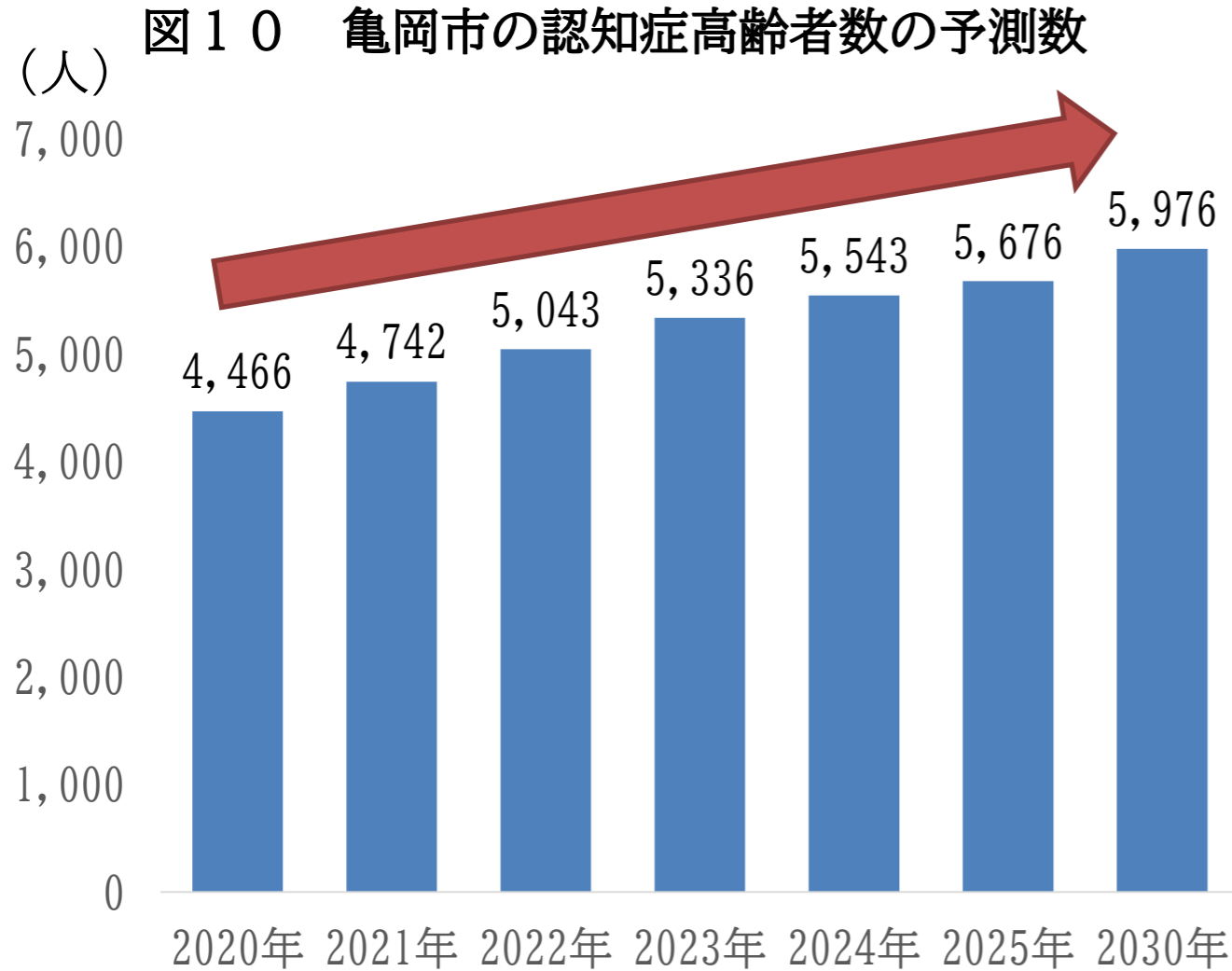
出典：国勢調査



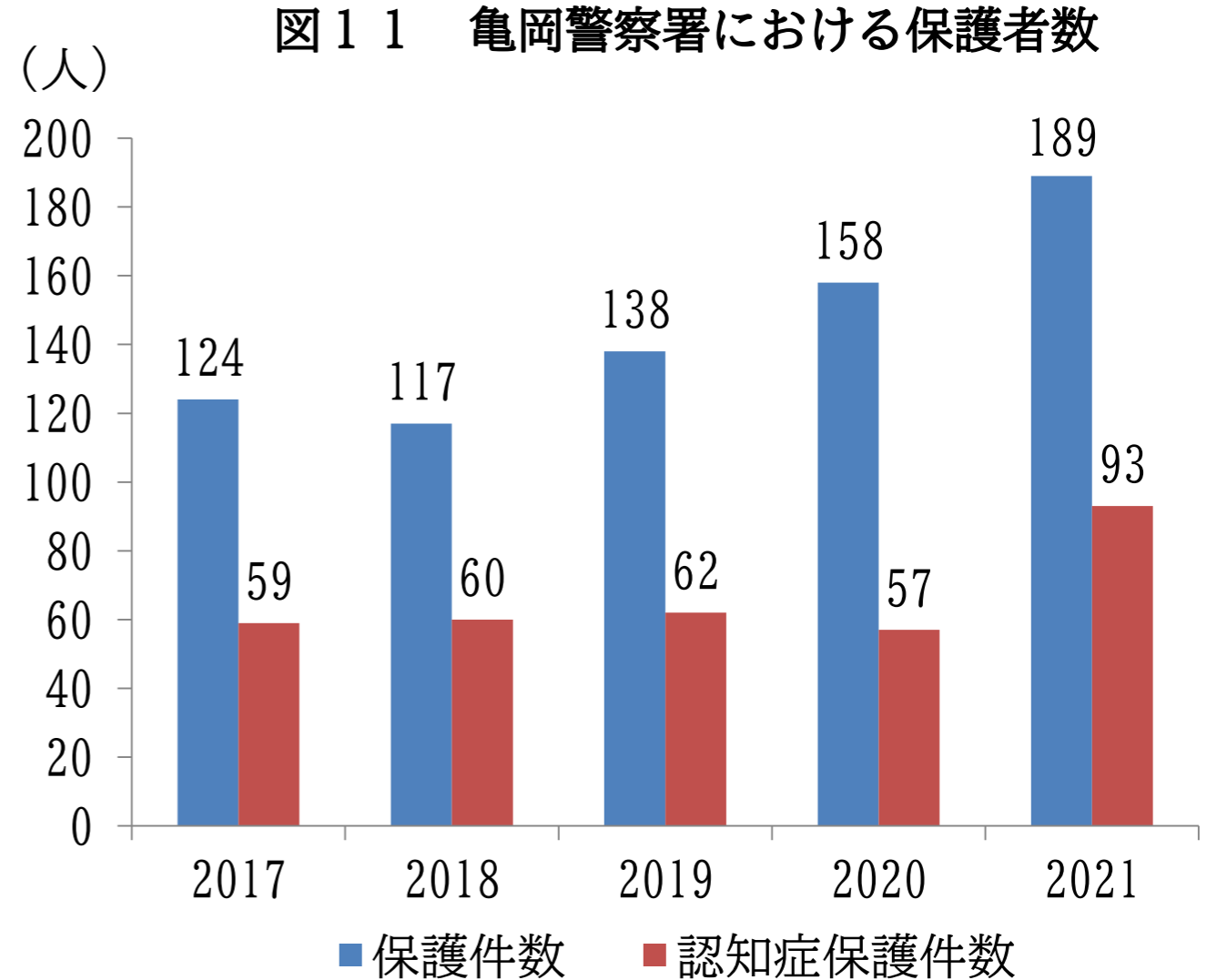
出典：亀岡市SCアンケート調査（2016）

データから見る亀岡市の実態（継続課題）

「認知症高齢者の増加に伴う徘徊のリスクがある」



出典：高齢福祉課推計データ



出典：亀岡警察署

課題整理

データに基づくもの

- ・ (継) 高齢者の受傷原因は転倒が最も多い (図3)
- ・ (継) 高齢者は転倒すると入院することが多い (図4)
- ・ (継) 高齢者の転倒は運動機能の低下が主たる要因である (図5)
- ・ (継) 高齢者の転倒件数は増加傾向にある (図6)
- ・ (新) 高齢者の転倒の5割以上が自宅で発生している (図7)
- ・ (継) 独居高齢者が増加している (図8)
- ・ (継) 高齢者の病気や転倒への不安感が強い (図9)
- ・ (継) 認知症高齢者の増加が予測される (図10)
- ・ (継) 認知症等高齢者の徘徊が増えている (図11)



重点課題の設定

課題解決のための方向性と対策

実態（課題）		目標		対策
<ul style="list-style-type: none"> ・（継）高齢者の受傷原因は転倒が最も多い ・（継）高齢者は転倒すると入院することが多い ・（継）高齢者の転倒は運動機能の低下が主たる要因 ・（継）高齢者の転倒件数は増加傾向にある ・（新）高齢者の転倒の5割以上が自宅で発生している 	→	<p>高齢者の転倒による外傷を減らす</p>	→	<p>①高齢者に対する運動プログラム</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・（継）独居高齢者が増加している ・（継）高齢者の病気や転倒への不安感が強い 	→	<p>独居高齢者が安心した生活を送る</p>	→	<p>②命のカプセル配布プログラム</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・（継）認知症高齢者の増加が予測される ・（継）認知症等高齢者の徘徊が増えている 	→	<p>認知症等高齢者の安全を確保する</p>	→	<p>③認知症等高齢者徘徊早期発見プログラム</p>

課題設定に対する既存の取組（国・府 市町村 地域）

課題	区分	国・府	市町村	地域
高齢者の転倒による外傷を減らす	環境改善	バリアフリー法策定	介護保険適用による住宅改修制度	
	規制	法令の整備		
	教育・啓発		対策委員会 高齢者に対する運動プログラム	
独居高齢者が安心して生活を送る	環境改善		民生委員に対する高齢者情報の提供	地域包括支援センターによる実態把握（訪問）
	規制			
	教育・啓発		対策委員会 命のカプセル配布プログラム	
認知症等高齢者の安全を確保する	環境改善	京都府認知症コールセンター権利擁護支援センターの設置	関係機関との認知症り患者に関する情報共有	認知症サポーター養成講座の開催
	規制			
	教育・啓発	新・京都式オレンジプラン策定	対策委員会 認知症等高齢者徘徊早期発見プログラム	

①高齢者に対する運動プログラム（継続）

実態	高齢者の外傷は、転倒が最も多い	
課題	高齢者の転倒による外傷を減らす	
内容等	【内容】	健康に関心の薄い高齢者に対し、地域に出向き転倒予防体操を実施
	【対象】	高齢者
(短・中期) 態度や行動の変化	【指標】 参加者の活動量・体力値	【測定】 日常生活の運動能力を測定
(長期) 状態や状況の変化	【指標】 高齢者の転倒経験、医療費及び介護給付費	【測定】 国民健康保険・後期高齢者医療保険における医療費及び介護保険給付費

高齢者に対する運動プログラムの介入状況

高齢者が参加しやすいように運動教室を各地で開催



コロナ禍における運動プログラムの取組

「かめおか元気アップちゃんねる」の配信



亀岡市のYouTubeチャンネル内で
自宅でできる介護予防の内容の動画を公開！

プログラムの活動実績

	実績と今後の予定	実 績				
		2018	2019	2020	2021	2022
運動教室	運動介入プログラム参加者	239人	248人	継続 141人	165人	人
	運動量・体力測定	445人	305人	継続 未実施	425人	人
養成講座 サポート 介護予防	介護予防サポーター累計数	382人	412人	435人	R3以降 実施なし 435人	435人
	サポータースキルアップ講座参加者数	56人	54人	継続 42人	36人	人

プログラムの活動実績

第11回「健康寿命をのばそう！アワード」表彰式



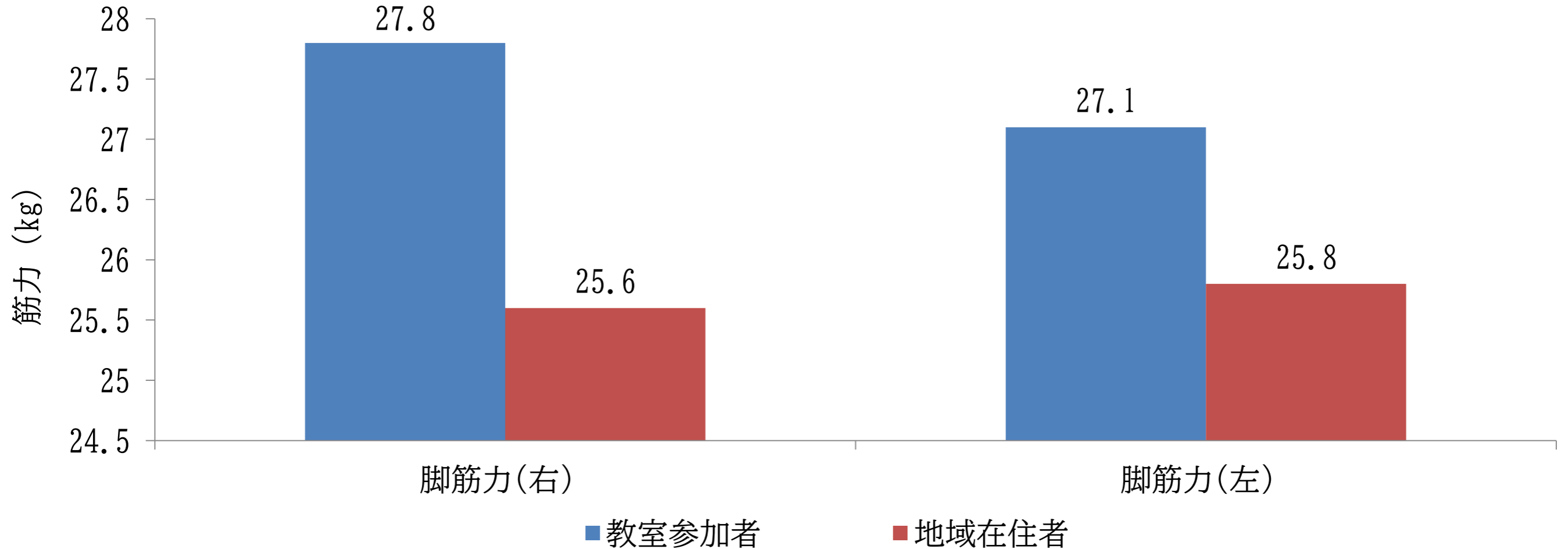
プログラムへの対策委員会の関わりと工夫点

対策委員会の関わり	工夫点
<ul style="list-style-type: none">・自治会関係<ul style="list-style-type: none">→地域での活動場所の調整と提供・民生委員、包括支援センター<ul style="list-style-type: none">→制度の周知活動	<p>誰もが参加しやすい内容で亀岡市内16か所で体操教室を展開している。</p>

運動プログラム評価（短期・中期）

「運動プログラム参加者は脚筋力が増加している」

図 1 2 運動プログラム参加者と地域在住者における平均脚筋力

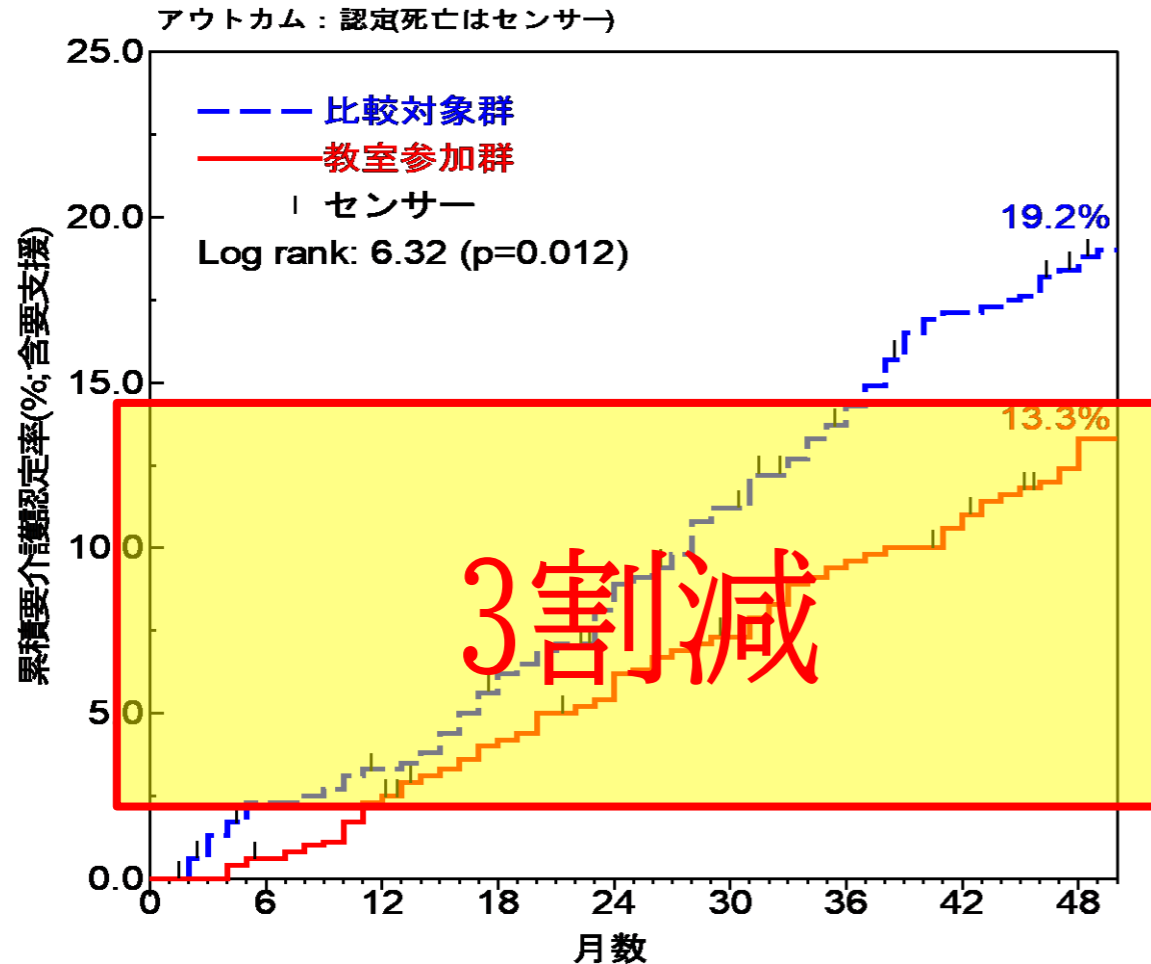


出典：2019年体力測定データ

プログラム評価（長期）

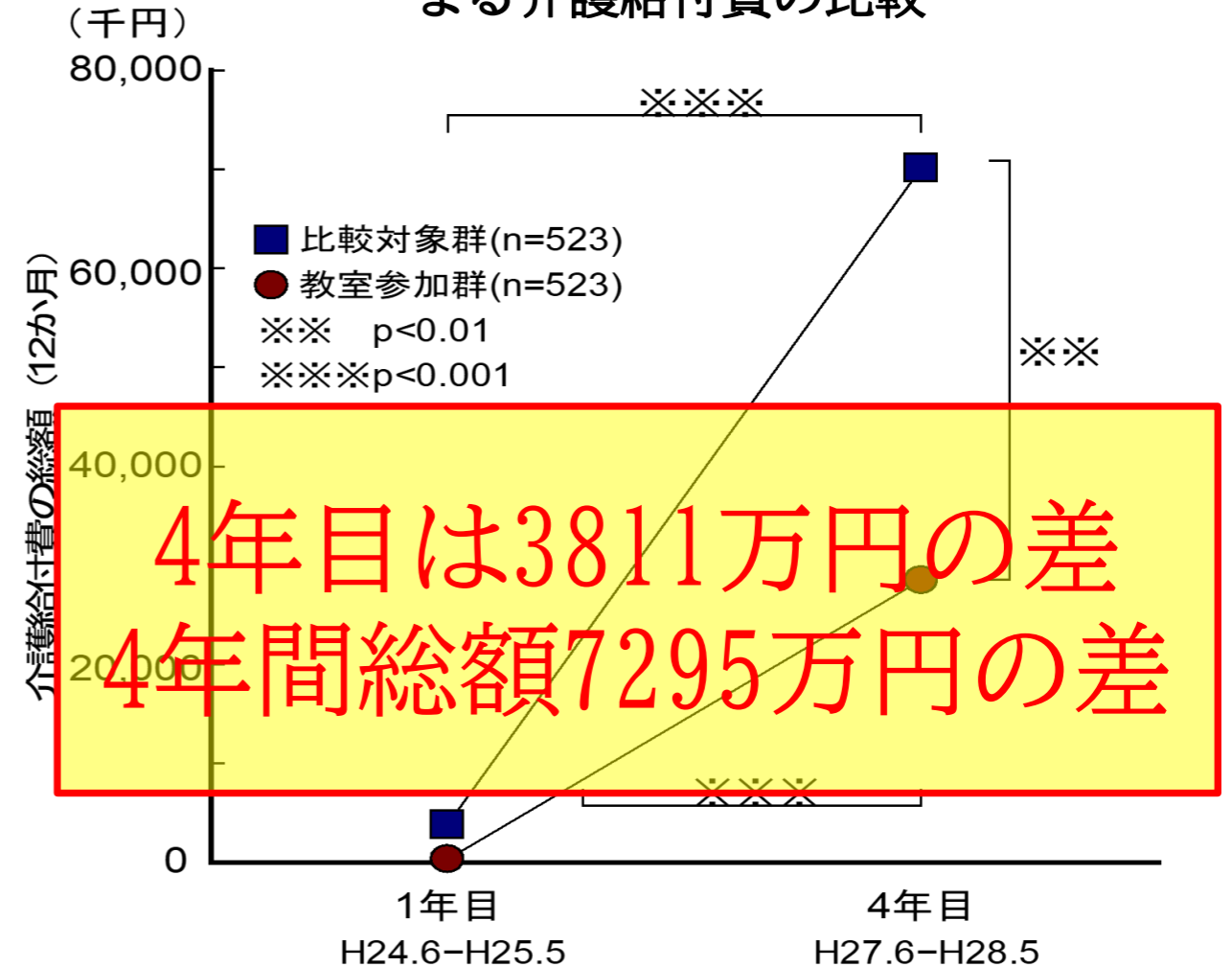
「プログラム対象群は、介護認定率が低く、介護給付額が少ない」

図13 プログラム介入の有無による介護認定率の比較



期間：平成24年6月～平成28年6月

図14 プログラム介入の有無による介護給付費の比較



出典：木村ら未発表資料

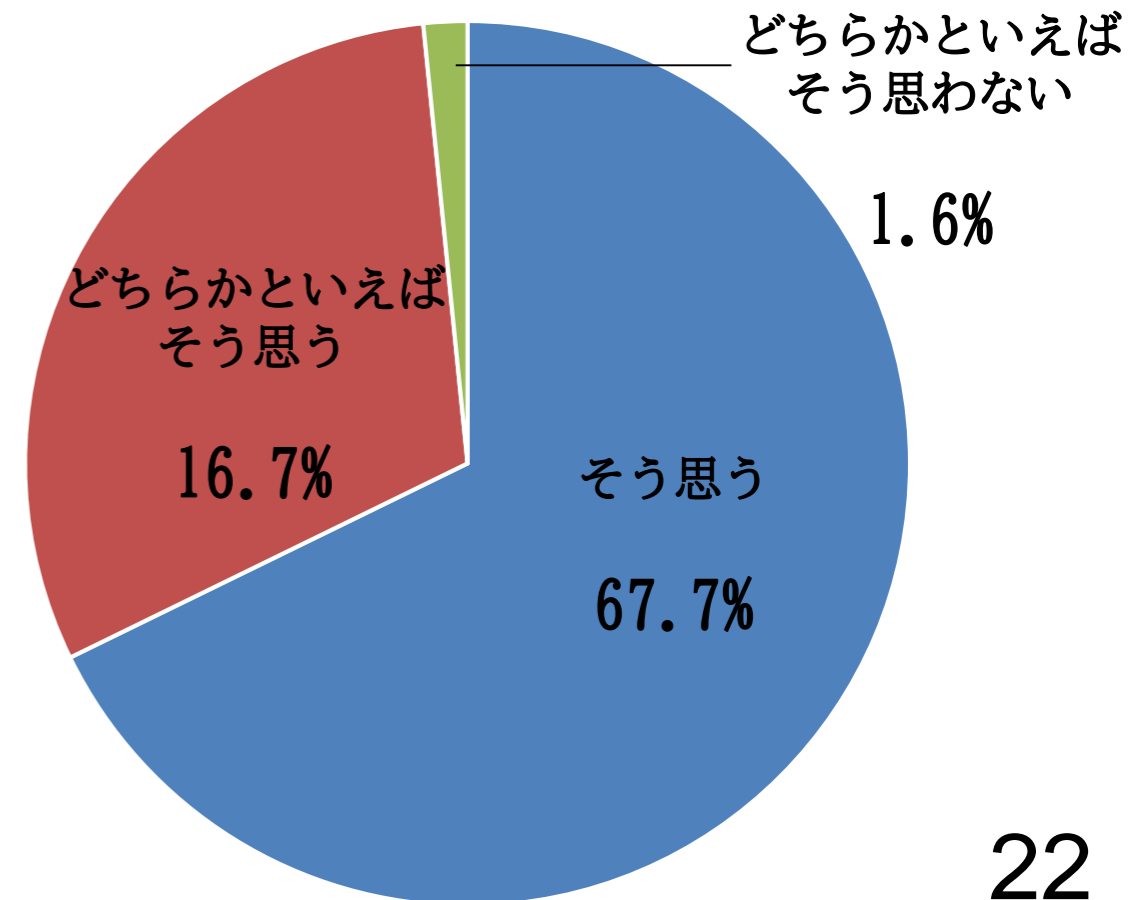
令和4年度 市民フォーラム開催

元気なまち「かめおか」への挑戦

～10年にわたる高齢者研究から見えてきた、健康な心と身体づくりのヒント～



心身の健康や介護予防に関する
知識を得られたか（アンケート集計）



②命のカプセルプログラム（継続）

実 態	独居高齢者は、病気や転倒などに不安を感じている	
課 題	・ 独居高齢者が安心した生活を送る	
内容等	【内容】	救急時に必要な情報（かかりつけ医療機関、服薬内容、病歴等）が入ったカプセルを高齢者宅の冷蔵庫に配備する
	【対象】	独居高齢者、高齢者のみ世帯（基本70歳以上）
（短・中期） 配布数と使用数	【指標】 命のカプセル配布数と使用数	【測定】 事業の実施状況報告
（長期） 状態や状況の変化	【指標】 独居高齢者の身近な相談者の割合	【測定】 高齢者等実態調査

命のカプセルプログラムの活動状況



プログラムへの対策委員会の関わりと工夫点

対策委員会の関わり	工夫点
<p>独居高齢者に対して民生委員や地域包括支援センターの見守り</p>	<p>冷蔵庫にカプセルを設置している場合はマグネットを冷蔵庫につけている</p>

プログラム評価（短期・中期）

「配布数、活用件数ともに減少傾向」

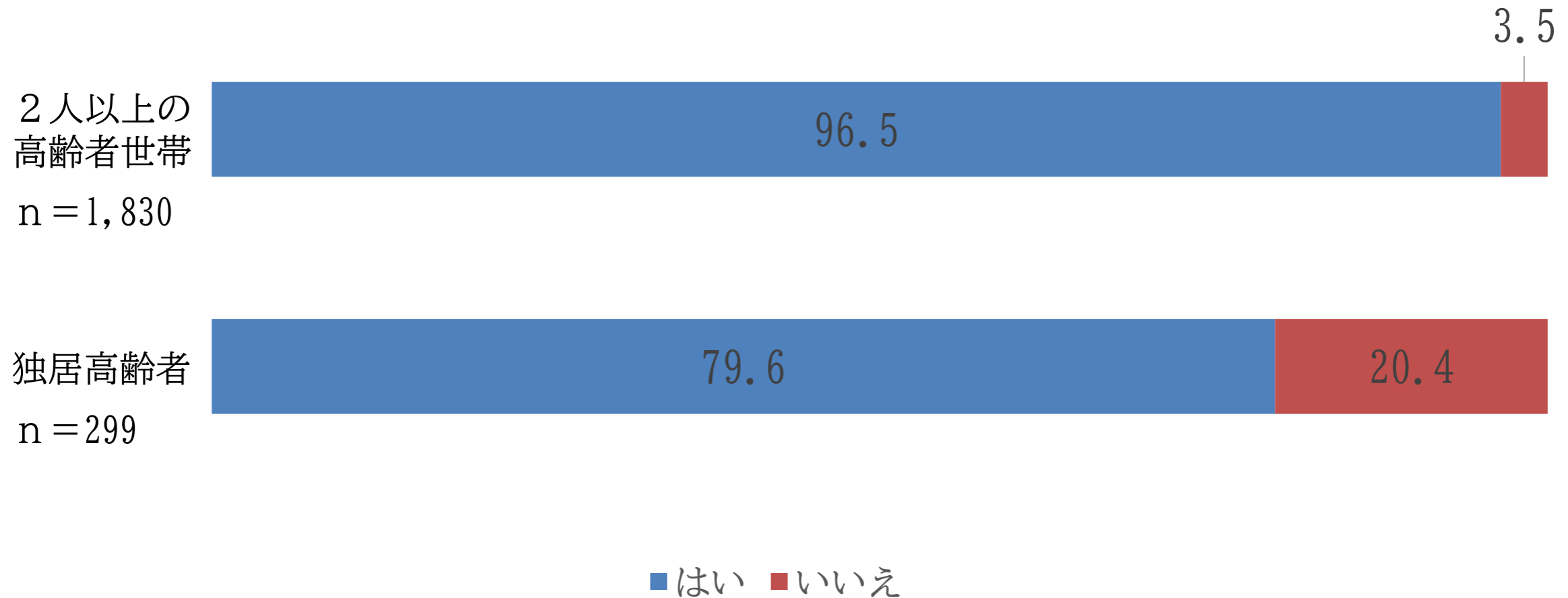
命のカプセルの配布数と使用数

	実 績				
	2018	2019	2020	2021	2022
配布数			継続		
	1,737人	927人	1,581人	1,173人	人

	2018	2019	2020	2021	2022
使用件数 (総配布数)	48件 (n=12,437)	37件 (n=13,364)	8件 (n=14,945)	3件 (n=16,118)	件 (n=)

プログラム評価（長期）

図15 高齢者等実態調査における身近な相談者の有無



③認知症等高齢者徘徊早期発見プログラム（継続）

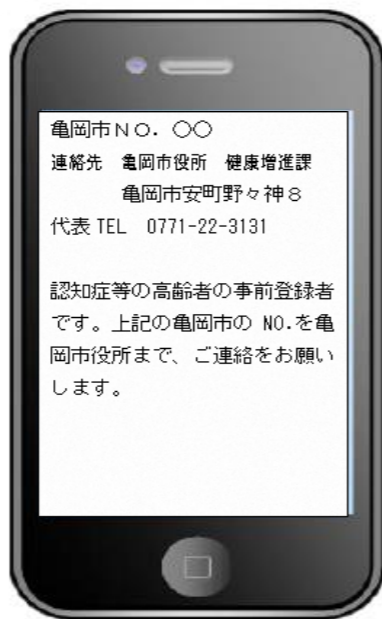
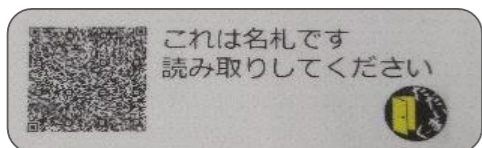
実態	認知症等高齢者の徘徊が増加している	
課題	認知症等高齢者の安全を確保する	
内容等	【内容】	認知症等高齢者が行方不明時に早期発見できるシステムを構築する
	【対象】	認知症等高齢者
(短・中期) 制度の登録件数	【指標】 制度の登録件数	【測定】 事業の実施状況報告
(長期) 制度の活用件数	【指標】 認知症高齢者の保護件数における制度の活用件数	【測定】 亀岡警察署報告

プログラムへの対策委員会の関わりと工夫点

対策委員会の関わり	工夫点
それぞれの所属団体やSNSでの啓発	新規の事前登録時に靴用反射材シールやQRコード付き名札を配布している

認知症等高齢者徘徊早期発見プログラムの活動状況

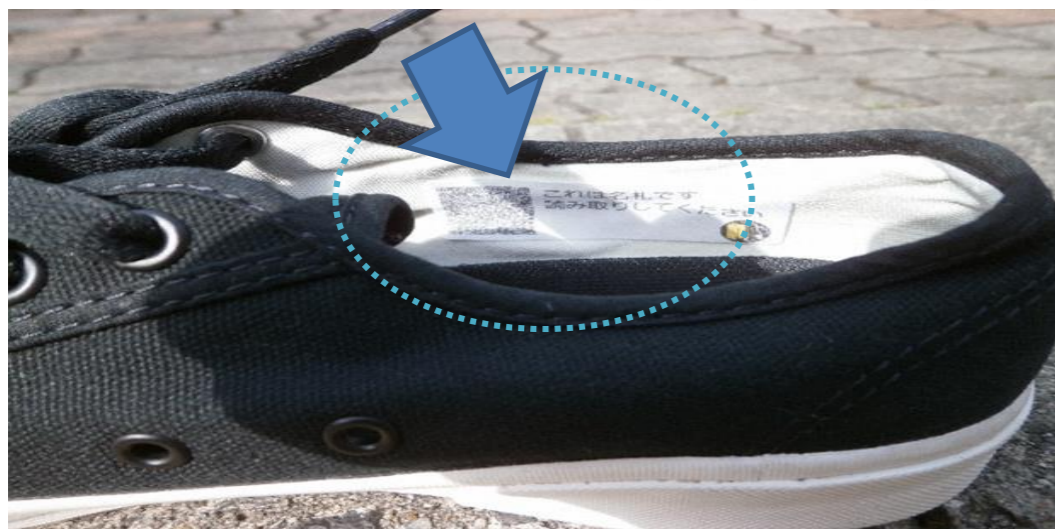
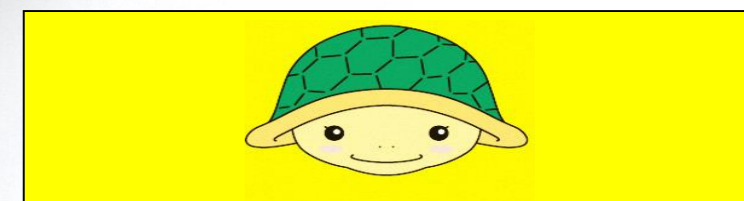
QRコード付の名札の活用方法



QRコードから、この画面が読み込まれます。(スマートフォンやタブレットの機種によっては、画面が現れずに電話がかかる場合があります。)



靴用反射材シール



プログラム評価（短期・中期）

	実績				
	2018	2019	2020	2021	2022
認知症等 高齢者事前 登録制度			継続		
	20人	25人	30人	29人	-人
QRコード付 名札の配布			継続		
	20人	25人	30人	29人	-人
認知症等高齢者 靴用反射材 シールの配布			継続		
	20人	25人	30人	29人	-人

プログラム評価（長期）

図16 認知症高齢者の保護件数

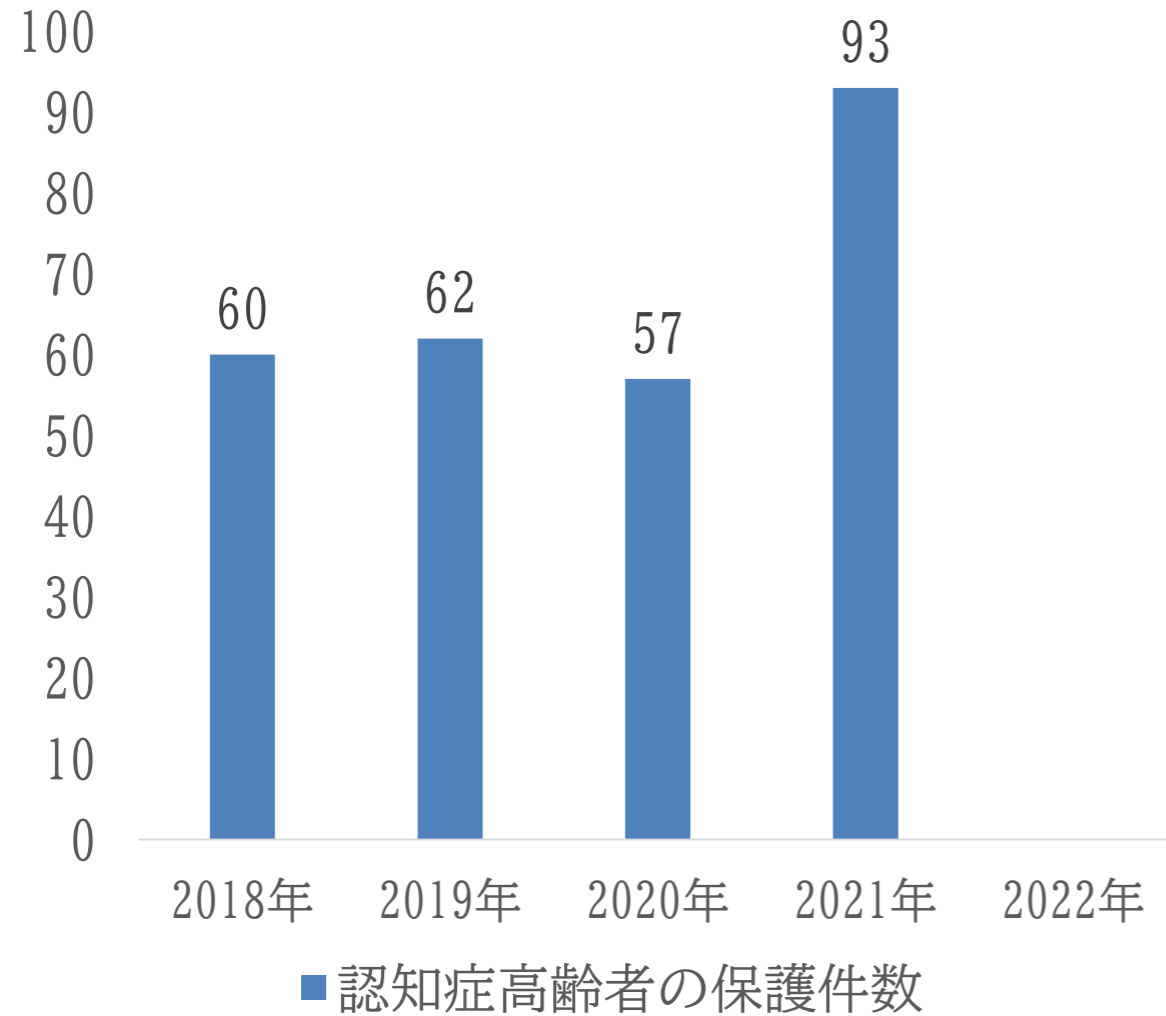
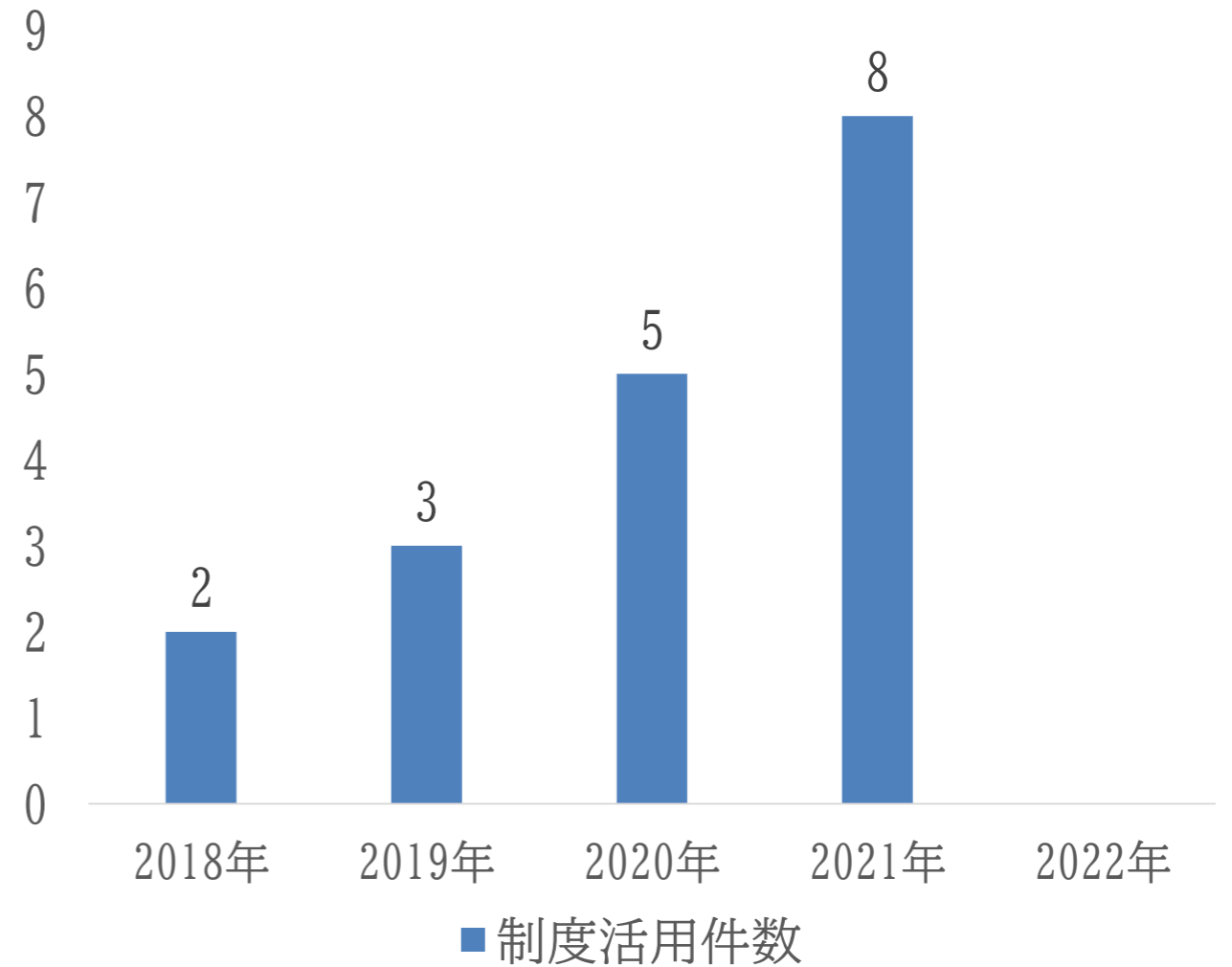


図17 行方不明者のうち制度活用件数



対策委員会での成果と課題

成果

- 根拠に基づいた取り組みを行い、経済効果の分析に繋がる。
- カプセルの使用件数は減少しているが、使用をしなくても連携できる体制が推進している。
- 認知症高齢者の早期発見や地域の認知症への理解の推進に繋がる。

課題

- 住宅での転倒予防についての取り組みの検討。
- 高齢化率の上昇に伴う年齢構造の変化など、状況に応じたプログラム内容や評価の見直しが必要。

今後の計画

SC認証(4回目)

SC認証(5回目)

2023

2024

2025

2026

2027

2028

プログラム①

継続

介護予防サポーターを核に拡大
住宅における環境整備の検討

プログラム②

継続

命のカプセルの活用推進
民生委員と地域の繋がりの把握

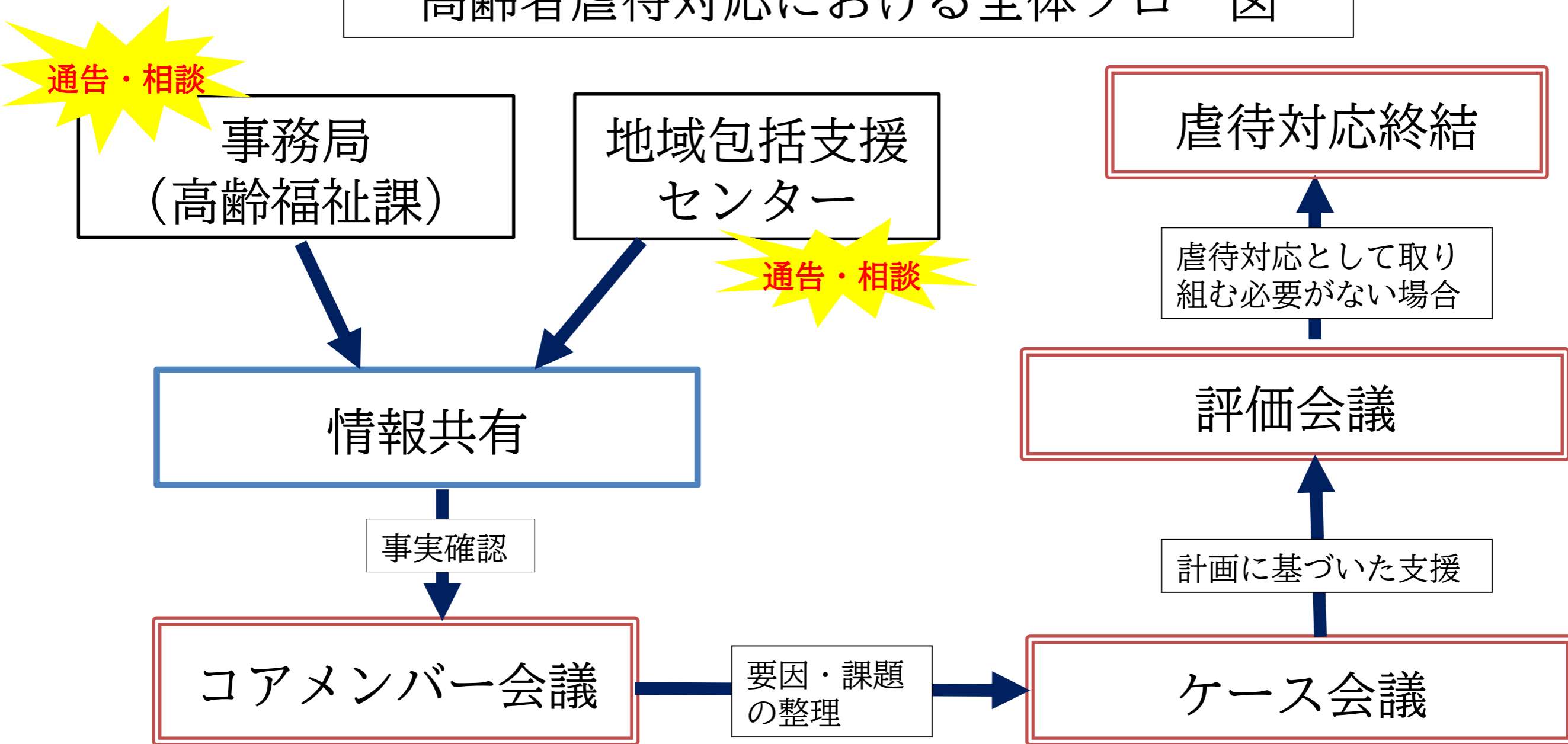
プログラム③

継続

事前登録制度の市民への周知と広報

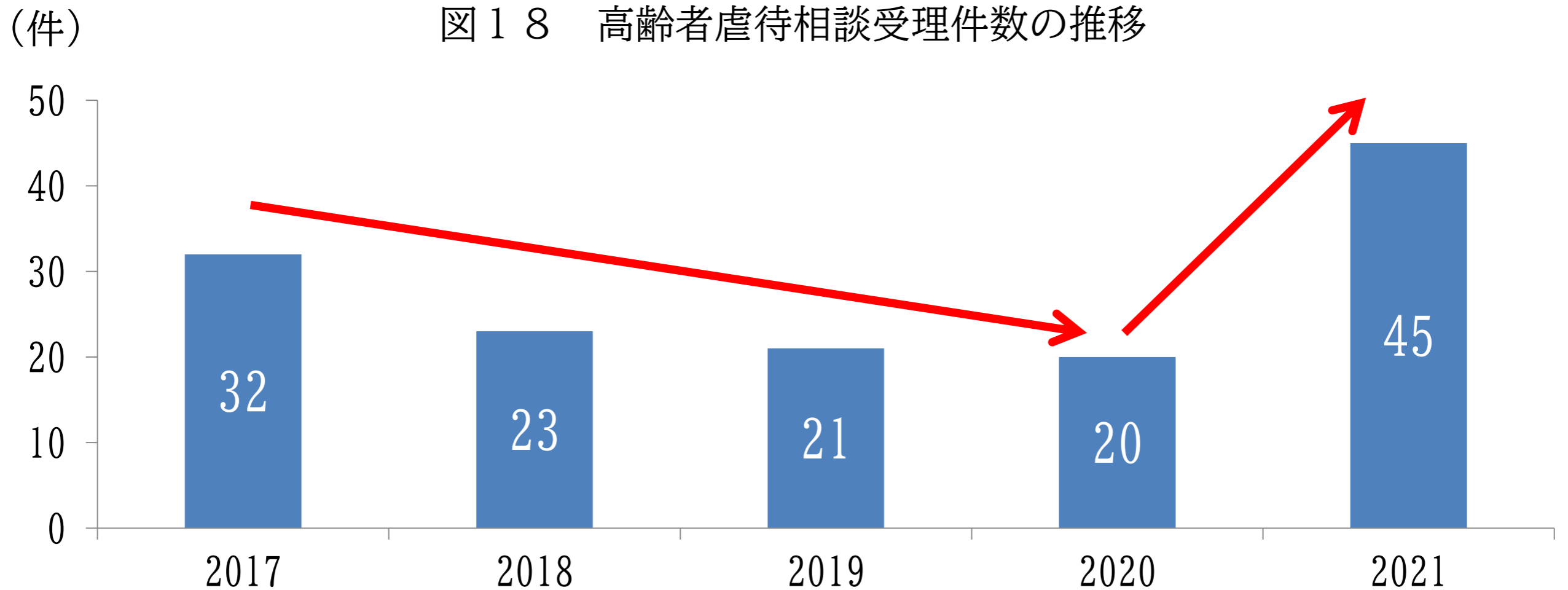
高齢者虐待対応状況

高齢者虐待対応における全体フロー図



高齢者虐待対応状況

「高齢者虐待相談件数は減少傾向から再度増加」



出典：京都府報告資料（亀岡市高齢福祉課）